

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスブライム・放課後等デイサービスブライム2		
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日 ～ 令和7年2月28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37 (回答者数)	37
○従業者評価実施期間	令和7年2月10日 ～ 令和7年2月28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11 (回答者数)	11
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども第一で考え一人ひとりの性格を良く理解し、ゆっくり無理せず一歩ずつ成長していけるような環境があり職員全員で話し合いの場を設け、真剣に子どもたちに向き合っている。	子どもたちがブライムに行くことを楽しみに通えるように毎日違うプログラムが生まれ、子どもたちが楽しめるイベントも様々ある。	子どもたちが安心できる場となるように温かく見守る。
2	子どもの安心安全に対して職員の考えや話し合いが厚い。	朝礼、終礼において詳しく情報共有できてよい。	これからも気になったことは職員さんに訊いていく。
3	保護者との信頼関係を築けている。	保護者からの相談には迅速に対応し、日々の情報共有を大切にしている。	日々の子どもの様子を把握し、少しの変化でもを早く気付けるように子どもを見守る。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援の場をみんなで広げていきたい。	障害の理解や特性、発達検査・アセスメントの取り方などを含めて子どもの様子をどのような視点でみればいいのかを確認できるとよい。	今はとても細かいところまで情報をおろしてもらえている。この先情報が溜まったときに次のステップとしてどのようなことができるかを話し合っていきたい。
2	活動は1と2別々だが、送迎時是一緒になるため子どもの様子を把握できない。引き受け時に共有があるときは分かるが共有がないと様子がわからない。	帰りの会が1と2どちらかが遅くなってしまった時は特に情報を共有できないでいる。	なるべく1の送迎車には1の子ども、2の送迎車には2の子どもを送迎を組むようにして添乗員も1の子どもの送迎車には1の職員、2の子どもの送迎車には2の職員が乗るように配置する。組めない場合においては子どもの様子をしっかり伝えるようにする。
3	お手洗い、水分摂取、食事など生活に必要な情報共有が少ない。	おむつ、トイレが気付けない子のトイレチェック、夏に向けての水分摂取、食事介助どこまでやっていいかが分かりにくい。	職員全員で確認していく。